キラリと光る！ ふるさと企業 その先の一手

お産から緩和ケアまで切れ目ない医療を提供

丸の内病院は、2025年に開設80周年を迎えます。地域の中核病院・かかりつけ病院として、地域医療を支えてきました。80年にわたり地域とどのように歩み、医療体制をどのように整備し、そして地域における役割がどのように変化してきたのか。これからの展望も含めて、同院の中土幸男理事長と百瀬敏充院長に聞きました。

中土幸男理事長

百瀬敏充院長

松本の中心的な病院を目指し開設

同院は昭和20（1945）年5月、「石川島芝浦タービン株式会社附属丸の内病院」として松本市丸の内（国宝松本城南）に設立されました。開設者は土光敏夫氏。病院名には、将来松本の中心的な病院になってほしいという願いも込め、診療科7科、医師6人でスタートしました。産婦人科は開設当初から今に至るまで診療を続けています。その後、市民のための一般診療も開始しました。

昭和44（1969）年に松本市開智（旧田町小学校跡地）に移転。58（1983）年にクリーンルームを開設すると、同院初の人工関節置換術が行われました。その後実績を重ねている人工関節手術は、今や国内トップレベルとなっています。現在の健診センターや在宅支援センターの前身も整備しました。

病院開設者 土光敏夫氏

平成19（2007）年には、現在地である松本市渚に新築移転しました。移転から17年たち、妊娠期から終末期まで切れ目のない医療・看護・介護のサービスを提供し、地域の中核病院として成長期から成熟期へと転換しつつあります。

旧病院全景（昭和30年）

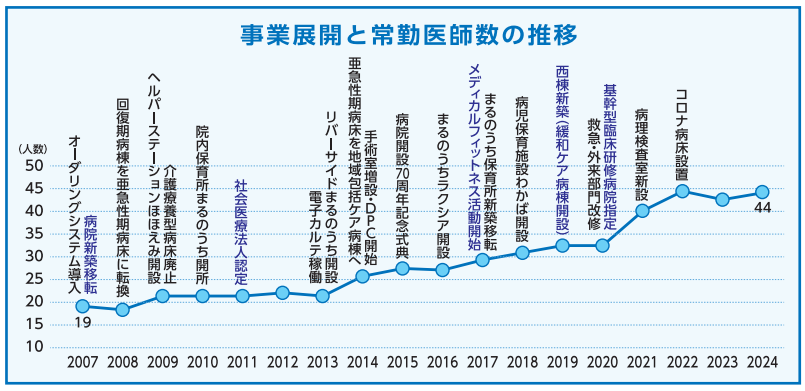
専門特化と地域密着で地域から選ばれる病院

移転後は、地域の役割に応じて得意とする分野で地域のトップレベルを目指す体制づくりが急務だとし、▽周産期医療による社会医療法人の取得▽病床機能の転換（亜急性期病棟を地域包括ケア病棟に、看護体制を7対1に強化）▽関連診療科間と職種の連携を強化するためセンター化▽情報公開の充実▽病院と地域の窓口である地域連携室のトップに医療職、管理職を配置―などに取り組みました。

■病院機能を拡充

医師数は移転時の19人から44人に増え、それに伴い診療科や専門外来数も増えています。多職種からなるチーム体制で取り組むべき診療や業務を「センター」として組織化し、より良質な医療と安心を提供しています。2011年には社会医療法人の認定を受けました。

手術室増設、複合在宅医療施設、病児保育施設。メディカルフィットネス施設、緩和ケア病棟の整備も進めました。



■運動器疾患診療と周産期医療を核に「専門特化」

専門的医療に特化した運動器疾患診療が強みです。整形外科手術件数は年間約1800件で、国内有数を誇る下肢人工関節手術を含め県下トップクラスの実績です。

2009年に県内のトップを切って開設した「母子医療センター」では、周期産に関わる多職種がチームを組んでいます。「助産師外来」や「院内助産」もいち早く取り組み、地域のトップランナーとして安全で安心なお産をサポートしています。このほど一般不妊治療も始めました。

始まりつつある慢性心不全の爆発的な増加・心不全パンデミックへの対応も進めています。松本医療圏でも増加が予想され、心臓リハビリテーションなどを通して心不全の悪化防止に取り組んでいます。

■「地域密着」の地域包括ケアシステムを構築

住み慣れた地域で「自分らしく生きる」ことができるよう、外来、在宅、病棟の連携により切れ目ない緩和ケアの提供も実現しています。

2019年に中信地区初となる緩和ケア病棟を新設し、一般病棟と連携してさまざまな苦痛や不安を和らげる治療と切れ目ない全人的ケアを行っています。緩和ケア専門医の増員により、在宅がん患者への苦痛緩和を図るため、在宅緩和ケアにも取り組んでいきます。

在宅医療・介護サービスも積極的に展開しています。13年に開設した在宅医療・介護複合施設・リバーサイドまるのうちを拠点に、地域密着型特定施設・まるのうちラクシア、病院と連携した体力づくり施設・メディカルフィットネス・リベリー、松本市より受託した地域包括支援センターらと連携した「地域包括ケアシステム」を支える体制を構築しています。地域の病院や老人福祉施設などとの連携も深めています。今後は在宅診療部を強化し、地域の「在宅医療」の需要に応え、在宅医療分野においても地域の核となれるよう取り組みます。

同院の、地域における役割は、急性期医療に取り組みつつ、地域包括ケアシステムの中で地域と連携を保つことです。「専門特化」と「地域密着」を両輪に、地域の病院間の連携と役割分担もより強化し、これからも「地域から選ばれる病院」であり続け、職員や家族の安心した生活も支えます。

人とシステムを融合し より質の高い医療を提供

より快適な入院環境の提供と看護師の負担軽減を目的に、2024年には全ベッドを入れ替え「スマートベッドシステム（看護支援システム）」を導入しました。電子カルテと直結するベッドサイド端末にバイタルサインを入力することで、スピーディーな情報共有を実現しました。

ほか、人工関節手術時のロボット支援や脊椎手術時のナビゲーション利用、画像AI診断など、さまざまな場面でIT化を進めています。今後人手不足が見込まれる中、業務の省力化も進めます。

スマートベッド

また基幹型臨床研修病院の指定を受けて若手医師の教育に努めながら、さらに次世代の医療や介護を担う人材を広く育成しています。今後もより質が高く安全な医療を、正確に、迅速に提供できるよう、人とシステムの融合も目指します。

社会医療法人 抱生会
丸の内病院
〒390-8601 松本市渚1-7-45 TEL.0263-28-3003
http://www.marunouchi.or.jp/ 丸の内病院 検索